

園児の躰と家庭との連絡

京都 永観堂 幼稚園

昭和七年四月入園後二ヶ月経過の後、即ち六月に保護者に對して、次の甲乙の問題を、園にて躰けたる丙の事項に對し、どんな程度にまで實行が出来てゐるか、問ひ合せを發して、それ／＼忌憚なき意見を求めました、そこで保護者より回答のまゝを、左に列記して御參考に供して見たいと思ひます。

甲 お子達様の入園前と、入園後とに於て、身體方面、精神方面、其他の方面に於て、どんな變化がありますか。

乙 お子達様の性質、其他の癖等はお子達の躰の上に於て承知しておき度いから、遠慮なくお知らせ下さい。

丙 園にて躰けたる事項(昭和七年四月よりの分)

- 一 行つて参ります。
- 二 只今かへりました。
- 三 有りがたうございます。

四 先生お早うございます。

五 皆さんお早うございます。

六 よくいらつしやいました。

七 神佛のお前に禮拜すること。

八 朝起きて食事前に東に向つて「天子さま、お日さま」へお禮のため敬禮すること。

九 毎朝必ず齒楊子を使用すること。

一〇 毎日曜日には手足の爪を切ること。

一一 毎食後は必ず口をすすぐこと。

一二 朝と夜寝る前には家族の方々へ挨拶すること。

一三 自分の名を呼ばれたら、「ハッキリ」返事をすること。

一四 椅子に腰をかけたる時は、姿勢を正しく兩足を揃へること。

一五 座したる時は正しき姿勢をとること(晝食の時にはよく注意して居る)。

- 一六 何れのところでも履物は「キチン」と揃へて脱くこと。
- 一七 間食はなるべく時間を定めて、決して不規則にいたゞかぬこと、但し日曜日に限り午前一回、午後一回、平常は帰宅後一回。
- 一八 遠足等の折には、お辨當以外には食物を携帯せぬやう指導をなす。
- 一九 食事前には必ず手指を洗ふこと。
- 二〇 食事する前に箸を両手に捧げて次の歌をうたい「いただきます」と唱へて合掌をすること。
- 「箸とらば天地御代の御恵み、父母や師匠の恩を味へ」
 食事終らば一同箸を箱に入れて両手にもちて「ごちさうさま、ありがたうございました」と唱へ、口をすく。
- 二一 毎朝「君か代」を歌ひ、御眞影に對し最敬禮を行ひ、お式をいたして居ること。
- 二二 食物のお菜には小言をいばぬこと。
- 二三 園内にて他人の呼び方「先生、〇〇さん。〇〇君。おぢさん、おばさん(小使)」。
- 二四 自分の場合は僕、私といふこと。
- 二五 お友達仲よく遊ぶこと。
- 二六 幼いお子達はいたはること。
- 二七 奇麗なお言葉を遣ふこと。
- 二八 鼻汁の拭ひ方其の跡の始末のこと。
- 二九 道具を使用せば一定の場所に片付けること、其のまゝに置かぬやう注意。
- 三〇 水道の水を濫用しないこと及び栓に注意すること。
- 三一 紙屑をかみくづ籠以外に捨てないこと。
- 三二 ハンカチ、カミ、を忘れないこと、女の子達は髪をくしけづること。
- 三三 道は左側を通り道草をせぬこと。
- 三四 幼稚園より歸途お友達の内立ちらぬこと。
- 三五 道にて母姉に物をねだり、又は露店の前に立ち止まらざること。
- 三六 途中先生やお知り合の方に出會へば敬禮をすること。
- 三七 動物をいぢめぬこと。
- 三八 幼稚園にていたゞきたる菓子等を途中にて食べないこと。
- 三九 朝は早く起き(このころ七時になれば)、夜は早く寝ること(このころは八時にならばやすみませう)。
- 四〇 平常腹巻を忘れざること。
- 四一 自動車内の注意として

- 1 大聲を出してさげがぬこと。
- 2 特に幼い年のお子達を親切にすること。
- 3 戸びらの開閉に手をふれざること。
- 4 昇り降りによく足もとに注意すること。
- 5 自動車内の道具に決して手をさげらぬこと。

以上甲乙丙の問題竝に事項に對し、保護者から忌憚なき御返事が参りましたから、そのまゝ参考のため記載致します(重複せる回答は省く)。

甲

- 一 登園を喜び毎日元氣で参ります。
- 二 方位(東西南北)を正しく知つて参りました。
- 三 協調性が芽へて來た様であります。
- 四 御蔭で身體が大變に丈夫になりました。
- 五 大變に聞き分けがよくなり、大なる無理を云はぬ様になり、身體が丈夫になりました。
- 六 伸びく〜と大きくなつた様です。
- 七 物事を見る目が確かになつた様に思ひます。
- 八 規則が割合正しくなりました。
- 九 身體の發育良好、食慾増進、長く眠ります。

- 一〇 血色が良くなり、病氣の度數が著く減じました。
- 一一 禮儀作法の感念ができ、素直になり、理解力が發達した様である、近所の人も良くなつたと申されます。
- 一二 食慾旺盛となり、食物の嗜好嫌がなくなり、血色が大變よくなりました。
- 一三 信仰心が出來、子供心にも感謝の念が次第に解つて來たこと、何一つ物品を大切に扱ふ様になりました。
- 一四 身體の發育益々旺盛、健康目に立つてすぐれて参りました。快活で明るくなつて参りました。
- 一五 なか〜我まゝでしたが、私達の云ひ付けをよく聞く様になりました。
- 一六 入園前は食事が少しも進まず、お腹の具合が悪かりしが、入園後は間食を止め、食事も進み、身體も健康になり、規則正しき運動のため手足其他の部分の筋肉が、大變に引締り強くなつて参りました。
- 一七 入園前はとても恥しがりで、人様の前に出れば何事も致しませんでした、入園後は大變によくになりました。
- 一八 意志も強くなり、何事も自分の事ば出來るやうになり、快活な心持となり、信仰心が出來、神や佛を拜むやうになりました。

一九 身體が丈夫になりますのが目立ちます、又家で我まゝ一

ばいに遊んで不自然に叱られたのも、入園後は叱られる事もなくなり、子として親として幸福に存じます。

二〇 身體も大變に丈夫になり、幼稚園に通ふのが、嬉れしいと見えて一度もいやな顔をした事がありません。

二一 血色よくなり、體量が増加し、外で遊ぶのを喜ぶやうになり、元氣で活潑になり、御飯を澤山に食するやうになりました。

二二 入園前は四條烏丸から植物園までの電車にも乗れなかつたのが、身體が達者になると共に長途の電車や、自動車にも弱らぬやうになりました。

二三 園にて草花や動物を愛するやう色々のお話を承ると見へて、云ひつけられぬのに夕方には花木に水をやり、又金魚が死ぬと可愛そうだから水をかえてやつて下さいなど、やさしい事を云ふやうになり、嬉れしい事と思ひ感謝して居ります。

二四 時々今日は目がいたんだから、先生に目薬を付けて頂いたとか、けがをしたからお薬を付けて頂いたとか、エプロンを洗って頂いたとか、申して歸て参ります、ほんたう

にお世話を感謝します。

二五 身體が丈夫になり、起床就寢が正しくなり、臆病がなくなり、何事にも姉を敬ふやうになり、お遊戯が好きになり、甘へる事が少くなりました。

二六 活潑に鋭敏になりました反面に横着となり、兄弟でよく喧嘩をするやうになりました。

二七 間食をしないやうになり、三度の食事が大變に進むので入園前より健康となり、肥つて参りました。

二八 大變に聞き分けがよくなりました。以前程かゝを立てぬやうになりました。

二九 動作が活潑となり、身體が大變に丈夫になりました。

三〇 身體方面が目に見へて強壯になりました、智的方面も大變に進んで來ました。

三一 身體が丈夫になり、間食せぬやうになり、友達と仲よく遊ぶやうになりました。

三二 三度の食事が大變に進むやうになり、又行儀言葉共によくなりました。

乙 一 負けきらひで注意すると、すれて反て結果が悪い。

二 返事が「ハイ」と早く出ない。

三 食事後に横になるくせがあります。

四 強情で困ります、なかなかすなほに聞き入れません。

五 我まゝ、強情、物事をするにも終りまですつかりする事が少ない。

六 依頼心が強く何事をするにも身が入らない。

七 左ぎきで何でも致します、なか／＼直りませぬ。

八 過失した時直ちにあやまりませぬ。

九 快活な返事をせぬ、子供らしく素直に物を請求せぬ、強情で陰性を帯びて居ります。

一〇 性質の關係であります、何事もハキ／＼せぬ、活潑さがいやです。

一一 自分の思ふ事は善惡に拘らず直さうとします。

一二 外來の人があれば却て亂暴な事をします。

一三 自分の意思に反した時は、中々強情で無理を申します。

一四 近所の遊び友達が年上の方のみだから、言葉使ひ惡しく手ですぐ、なぐるくせがあります。

一五 落付きがなく注意が散慢である。

一六 少し強く叱りますと、よく言ふ事を聞きますが、餘り強く度々叱らぬやうにして居ります。

一七 生れつき神經質で落付きがありません、一寸した事を氣にしたり、他人の事をコソ／＼世話し随分細い點にまで氣が付きすぎます、もつとノンビリとした性質に致し度いと願ひます。

一八 自分の思ふ事は何事も通さなければならぬ性質であります。注意したり教へたり致しますと、其理由を尋ね、自分の意に充たぬと徹底的に尋ねる性質です、内ではとても、おいたを致しますが外へ出ますれば恥しがつて仕様が御座りませぬ、外へ出ても今少し元氣が出たらと思ひます。

一九 非常に我儘で自分の思ふた事は通されば承知しません、又不注意で寸時も注意深く落付けて居る事がありません。

二〇 何事によらず他より注意など致します時は、必ずもう一度それを繰り返してからでないと思ひませぬ。

二一 宅ではどうも言語が粗雑で、性質が亂暴で、兄弟喧嘩を致しますと、負けて直ぐに物品を投げつけるくせがあります、父が居りますと大變よく云ふ事を聞きます。

二二 少し叱りましてもすれるくせがあります、亦強く叱りますと一日心に持つか夜熱が出たり、ヒキツケを起します。

二三 氣がよすぎて他人になつき易い、反面に氣が弱くて、から元氣の方です落付きが足らず急で困ります。

二四 はにかみやで他人様に禮や言葉が無邪氣に致しませんのが悪いくせで、稍々我まゝであるが、他處では非常に内に氣で人に馴れない方でありませぬ。

二五 一言云ひ出した事は必ず通さればをかず、氣に入らぬ事があればすぐ泣き出します。

二六 買喰ひをしたり、他人の持つて居る物を欲しがらくせがあります。

二七 意志が堅くて負けず嫌ひのくせに、はにかみやでありませぬ(家では園で教はつた唱歌や遊戯をやりませぬ)。

二八 陰氣で好き嫌ひ多く子供らしき、朗らかな處が少く家で外に出て遊ぶ事が少ない。

二九 他人様に負けるのが嫌ひで困ります。お友達を好き嫌ひして困ります、何事も永く續きませぬ。

三〇 何事も自己心が強く他人の持つてゐる玩具を欲しがるので困ります。

三一 自分の仕様と思ふ事の外は他から何と申しても中々しませんので強情でこまります。

三二 近頃は玩具を欲しがり、ケーブル、電車とか望遠鏡とか欲しいの連發で、其の取捨にこまります。

丙の躰の各項目に對する實行の程度は、入園後僅か二ヶ月後の事であるから、また充分きは申されませんが、短時日ではあるが相當の成績を擧げてゐる。今一々其統計を示すこゝは、紙面の都合もあるこゝにて茲に省略致します。

乙の問題に對する各家庭の忌憚なき申出は、その後の躰や、個性の觀察、その他矯正指導上に幾多の便利を得たる次第で、その個性を適當に善導して良成績を擧げた幾多の實例を有するも、是れ又今回は省略致します。

もまゝ幼児の躰は母親の教育による事多大である。それについて大切なお子達に一度喜び事を教へて知らずく實行を續けて行くには、決してみんな障りがあつても『まあ一度位は休んでも、せなくてもよい』、お子達の無理にたい打負けてしまはれるやうな事のないやうに進んで行かれる事が必要で、根氣くらべであります。子の愛に引かされて良習慣の破られるこゝが有りますから、まして人間一生の必要な躰方にありては、夢にも甘い言葉で折角の良習慣をこはされてしまふ事のないやうに、お母さまが根氣強くなされる事、まごまでも反覆練習が何よりも大切な事に存じます。